

水道局

水道・交通委員会資料
令和5年12月14日
水道局

横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例に基づく 令和4年度の実施状況について

- 1 脱炭素社会の形成の推進に関する施策の実施状況について 2

【掲載取組】

基本方針名	報告書 掲載頁
(1) 基本方針5 世界共通の課題である脱炭素化への貢献	21, 22 頁
(2) 基本方針6 市役所の率先行動	48 頁

1 脱炭素社会の形成の推進に関する施策の実施状況について

(1) 基本方針5 世界共通の課題である脱炭素化への貢献

取組実績、今後の取組

1 海外諸都市への技術協力・海外インフラビジネスの推進

- アフリカ諸国やパキスタン等の水道技術者を対象とした水道分野に関する研修を、対面やオンラインで実施したほか、ラオスやマラウイ等に職員を派遣し、財務や無収水削減に関する技術協力を行いました。今後も、横浜水ビジネス協議会会員企業や横浜ウォーター株式会社に企業 PR の機会を提供するなど海外水ビジネス展開を支援するとともに、公民連携による技術協力を推進していきます。

3 国や国内のゼロカーボンシティ等との連携強化・情報発信

- 安定した河川流量と良好な水質を維持し、健全な水循環と環境保全に寄与するとともに、市民の皆様へ良質な水道水を供給することを目的として、道志水源林の保全を進めました(2022(令和4)年度整備面積(実績):99ha)。なお、整備費用の一部には、企業・団体と協働で水源林保全に取り組む「水源エコプロジェクト W-eco・p(ウィコップ)」の寄附金を活用しています。

(2)基本方針6 市役所の率先行動
局・統括本部ごとの取組実績等

水道局（水道事業）

- 2021(令和3)年度の温室効果ガス排出量は、2013年度比 14.4%減の5.9万トンとなりました。
- 2022(令和4)年度のエネルギー消費量は、2013年度比2%増の1,270TJとなりました。
- 2022(令和4)年度は、給水工事受付センターなどで LED 等高効率照明を導入し、LED 化率は 22%となりました。
- 浄水場や水道事務所など4施設に太陽光発電設備を導入しています。
- 一般公用車は、2022(令和4)年度までに 23 台の次世代自動車等を導入し、割合は8%となりました。
- 職員の取組として、「横浜市グリーン購入の推進に関する基本方針」に基づき、環境に配慮した物品、役務の調達を行いました。
- 水道事業の取組として、配水ポンプの更新に合わせ、制御方式を効率の良い VVVF 制御方式に1か所更新しました。また、自然流下系の施設の優先的整備として、西谷浄水場の再整備を進めています。その他の再生可能エネルギーでは、小水力発電設備を6か所導入しています。

<温室効果ガス排出量の状況> (単位:万 t-CO₂)

基準年度 (2013)	2019年度	2020年度	2021年度	
	実績	実績	実績	増減率 基準年度比
6.8	6.8	5.8	5.9	▲14.4%

<エネルギー消費量の状況> (単位:TJ)

基準年度 (2013)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	実績	実績	実績	実績	増減率 基準年度比
1,246	1,293	1,313	1,292	1,270	2.0%

<公共建築物の新築・改修等における取組(LED 等高効率照明の導入状況)>

全灯数 (2022年度)	LED 等高効率照明の導入割合の推移			
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
16,485	14%	19%	23%	22%

<再エネの導入拡大に向けた取組(太陽光発電設備の導入状況)>

設置済施設数(2022年度)：4施設

<公用車における取組(一般公用車における次世代自動車等の導入状況)>

一般公用車の 台数 (2022年度)	次世代自動車等の導入割合の推移			
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
288	6%	7%	8%	8%

※2022年度の次世代自動車等の台数 EV:7台、PHV:0台、FCV:0台、HV:16台